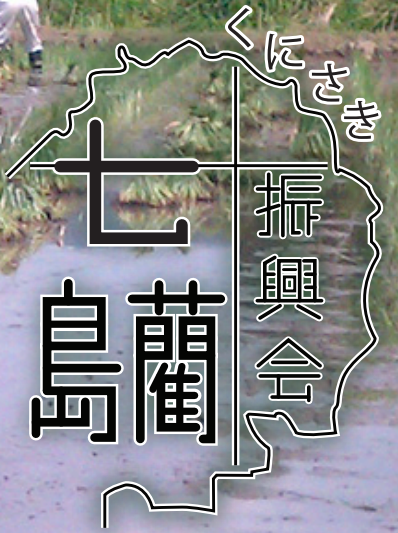


vol.  
009

2013 5 25発行



## 直木賞受賞作 「蝸ノ記」 映画化決定



巻くキャストとして「梅ちゃん先生」の堀北真希。テレビや映画でおなじみの原田美枝子。来年の大河ドラマで黒田官兵衛を演じる岡田准一と豪華キャストで現在製作が進められている。「くにさき七島蘭工芸士会」の会員もエキストラで出演することになっている。また、この映画は日本で最後のフィルム映画になるという事で作品の良さもさることながら、日本の映画史上に大きな足跡を残すことになるだろう。このような作品にかかわることが出来、多くの振興会会員の励みになる事と思う。

葉室麟氏の直木賞受賞作「蝸ノ記」が東宝映画によって映画化が決定した。江戸時代の架空の藩であるが七島イが大きなテーマになっている事から杵築藩をベースに考えられたのではないかと思われる。小説では七島イの場面はほとんど出ないが、脚本では七島イの良さが現れているようだ。主演は時代劇ではおなじみの役所広司で彼を取り



## くにさき七島蘭工芸士会総会が開かれる

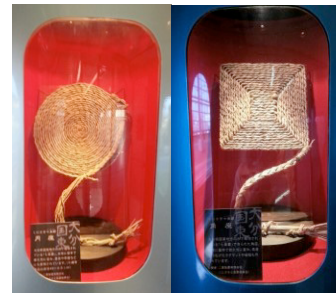
5月7日、国東町鶴川の「ツルカワコーナ」で工芸士会の総会が行われた。振興会の会長はじめ、工芸士7名研修生4名、行政のかたも来られ総勢19名で開催されました。会長のご挨拶の中で、大分大学との連携で七島イの天然染色の研究、大分県農業文化公園の棚田に七島イを栽培する話、国東半島を世界農業遺産登録に向けた話など、かつては貧乏草と揶揄されていたのが嘘のように多方面で注目を浴びているのを聞き、工芸士の皆さんもますますやる気になっているようだ。今後の会の方針についても忌憚のない話が出来、依り良い会になって行くことを期待したい。

## 大分高専と自動織機の改良に向けた話し合い



長年の懸案だった自動織機の改良に向けた話し合いが生産者と県、市と大分高専、民間の洞門エンジニアリングをまじえて4月5日二豊製豊有限公司、国東店で行われた。今回の事業は単年度事業の為、秋口の野草が出来るころには試作品による製織を始め、年度内で完成にこぎ着けなければならぬ。厳しいスケジュールだが、官民一丸となつて、やり遂げようと決意を述べた。

## ソニックスの七島イ工芸品に遭遇



前回お知らせしたソニックスに展示しているミニ円座や角座の目撃情報が寄せられました。さすがプロのディスプレイなのか、素晴らしい展示となつています。ソニックスに乗車の折は目を皿の用して見つけてください。

# 生産者支援のお願い



今年も、七島イの植え付けの季節になりました。また、忙しい農作業が始まります。

先日、国東市内の農家の方と話をしているときに、七島イの作付けを勧めてみました。彼は、昔経験したあの厳しい夏の作業はもうやりたくないというのでした。それほどつらい農作業であったのでしよう。

現在は、分割作業や乾燥作業は機械化されており、以前と比べると作業は随分楽になったと思われる。それでも、七島イ作付け農家の支援はとても重要で、多くの関係者の方々に對しまして、七島イ農作業へのご参加を改めてお願い申し上げます。

豊表への織りの作業も個々の農家にとっては負担が大きいものがあります。今年度からは、自動織機の改良や織手の養成講座など新たな取り組みが行政や高専関係者の支援のもと進められることになっております。七島イ産業が永続的にこの国東で続いていくためには何をすればいいのか、多くの方が考え協力してくれていただいていることに、大きな未来を感じています。

## 古庄さんの圃場の支援を通して

くにさき七島蘭振興会 会長 林浩昭

生産者の古庄さんは今まで頑張つてこられたが、高齢の為七島イの栽培は止めるつもりだった。それを聞かれた副会長の富永氏より工芸士さんに手伝つてもらつて続けたらどうかとアドバイスがあり、復活となった。今後このような形の支援で、体に負担をかけず、少しでも長く栽培が続けられるよう、関係機関と連携を取り構築して行こうと思つた。

(表紙写真は工芸士さんの植付けの様子)

## 衆生鬼会に七島イ製わらじ提供



2月16日に岩戸寺で行われる衆生鬼会に「くにさき七島蘭振興会」が七島イ製のわらじを寄贈した。岩戸寺の上田住職より連絡があり、わらじの製作者も高齢化で製作が難しくなり、当会の活動を知ら協力を求めてきた。通常のわらじは耐久性に乏しく長時間履くと傷んで履き替えることが度々あったので、一度国東特産の耐久性に定評のある七島イのわらじを使つてみたいと思つていたので。今後も七島イ製品を地域のお祭りなどに積極的に進めていきたいと思つた。

## 七島イの歴史

### ●「七島イの伝来とその逸話三」



五郎右衛門、小舟に身をまかせ、青い海を求めて帰郷へ

俊長公は先代の意思を継ぎ、郡部行、長沢源右衛門に命じ藤原村と八坂村に、イ草を試植した。また、栽培者には肥料を与えるなどして生産を奨励した。四代、俊量公の時には広く四隣に普及し一般の豊表に使用し得るまでに至つた。また、量産体制も整い、日出領では重要な農家の副業となった。領内の百姓は俊長公の徳をたたえて、村々より初薙一枚を毎年献納したいと願い出て、正徳四年(一七二四年)からは村々の庄屋を総代に、明治の代に至るまで、八朔の節句を以て初薙を献納し続けたとのことである。

次回からは、杵築、国東地方(杵築藩)の伝来を記す。

参考文献「豊後の七島い その歴史を追つて」

大分県農業技術センター 前田 哲夫

## 七島雑感

私が七島イの再生事業にかかわりだしてから間もなく4年になるうとしていた。最初の事業の説明会の時、「七島イも植えたことの無いのに何が出来るか」と御叱りを受けた生産者で七島イマイスターの宇都宮さん、生産者同士の宴会で、末席にいた私を上座に座らせ「七島イの再生を頼む」と言われた平山さん。お二人とも七島イには無くてはならない方であつたが共に鬼籍に入られた。次の使命を託されるには余りにも荷が重く感じる。お二人が守り育ててきた土の上に、天を指指してすくすく伸びる七島イを見せてあげたいものだ。

事務局長 細田利彦

## 会員募集のお知らせ

途絶えつつある七島蘭の保存とともに、新しい地域産業として再生させるといふ趣旨にご賛同いただける個人ならびに企業の会員の募集をしております。

会員の方には、七島蘭の植え付け、刈り取りの農業体験や、生産者との交流会も開きたいと思つています。途絶えようとしていた七島蘭ですが、大分県や国東市の支援により再生への道筋もようやく見えてきました。

どなたでも気軽に参加できる会にしたいと思つています。会員一同、一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

発行: くにさき七島蘭振興会事務局  
大分県国東市安岐町富清3209 (二豊製豊内)  
電話: 0978(65)0800 FAX: 0978(65)0801  
http://www.shitto.org/